カナダ ホルスタイン 酪農とロイヤル・アグリカルチュラル・ウインター・フェア

第51回組合員海外酪農視察研修

視察研修企画／デーリィマン社・北海道ホルスタイン農業協同組合

第51回目となる海外酪農視察研修が2025年11月11日から6日間の日程で開催されました。本研修はデーリィマン社との共催で行われ、カナダのオンタリオ州トロントで開かれたロイヤル ウィンター フェアと、トロント近郊の牧場3軒を視察いたしました。当組合からは松原副組合長、影浦経済企画委員長と審査部杉野が参加しましたので、その概要を報告いたします。

【11月11日（火）1日目】出発

今年度の視察研修の参加者は、新千歳空港発着が18名、羽田空港発着が3名の総勢21名（道内19名、都府県1名、添乗員1名）でした。新千歳空港の出発ロビーで当組合柾谷専務より激励の挨拶をいただき、柾谷専務、下井参事に見送られ羽田空港で全員が揃い、団長に松原副組合長、副団長に影浦経済企画委員長とさせていただきカナダ・トロント空港へ出発しました。出発、到着に大きな遅れはなく、トロント空港で現地ガイドを務めていただく森さんと合流しバスでナイアガラ・フォールズへ移動、ホテルにはほぼ予定通り到着しました。

【11月12日（水）2日目】牧場視察

この日はナイアガラ・フォールズ近郊の3牧場を視察するためバスで移動しました。バスの中では改めて参加者の自己紹介があり最初の視察先に到着しました。気温が低く、風も時折強いなかでの視察となりました。

SUMMITHOLM HOLSTEINS（サミットホルム牧場）

1軒目の視察先であるサミットホルム牧場のある場所は過去に鉄道が走っており、駅が頂上にあったことからサミットステーションと呼ばれ今でも鉄道のレールが敷地内に残されており牧場で運営している直売所の名前を【SUMMIT STATION Dairy Creamery】としており、牧場名はサミットホルムとなっています。

1955年に設立されフリーストールミルキングパーラー、搾乳牛460頭の3回搾乳、能力はM42kg／日、F4.8%、P3.4%体細胞数は11万となっています。農地面積344ha（デントコーン、アルファルファ、ライ小麦）アルファルファを3年間収穫した後コーンを3年間収穫し、秋にコーンを収穫した後に半分の畑にはライ小麦を播種し春に収穫した後にコーンを作付けしています。残りの半分はえん麦としており、ライ小麦からアルファルファへの直接移行は避けているとのことです。

初生のメスには生後1時間以内に初乳を3ℓ、5時間後に更に5ℓ給与し、ミルクは5週間までは10.5ℓ／日、6～7週7ℓ／日、8～9週3.5ℓ／日（その後離乳）としているとのことです。ホル×アンガスF1種の初生価格は2,000ドルとのことで、ここ2週間で5倍に価格が上がったと仰っていました。搾乳牛は5産以降は牛群に置かず近隣の牧場に販売しています。フリーストール牛舎のベッドには今回視察したいずれの牧場でも砂を使用しており、やはり肢蹄の負担軽減と乳房炎の予防のためであるとのことで、牛群は胸が広く、蹄の角度があり、蹄踵の厚い牛が多い印象でした。

敷地内にはソーラーパネルがあり、牧場全体の電力を約80%賄っており、また事業の多角化として生乳を加工しミルク、チョコレートミルク、ストロベリーミルク、チーズ、さらには雑貨や衣類などの販売をしていて、参加者は視察後に直売所でお土産などを各々購入していました。

サミットホルム牧場直売所乳製品

BOSDALE FARM（ボスデール牧場）

昼食を挟み２軒目はボスデール牧場です。1960年代に牧場を設立、2020年にロボット３機のフリーストール牛舎を併設し、搾乳牛195頭、平均能力M12,500kg、F4.0%、P3.2%となっています。ボスデールではこれまでに400頭を超えるEXを輩出しており、視察に伺った日も数組の視察が入っていました。

ここで少しカナダの酪農事情についてお話しします。カナダ国内の生乳生産量は国・州が割り当てをして、過剰供給を防ぎ、輸入制限と国内生産管理を行い、自給率を高く保つシステムにより生乳価格の安定を図っています。酪農家は「１日１kgの乳脂肪を生産する権利」（クオータ）を購入することが必要です。そのため、新規就農や増頭したいときは離農した方、または他の酪農家からクオータを購入する必要があり、新規就農や増頭をしづらい側面もあります。１日で１kgの乳脂肪の生産は経産牛１頭分に近いため、１クオータは経産牛１頭を飼養できる権利であり、近年１クオータが高騰していて25,000カナダドル（270～280万円）/クオータで取引されているとの説明を受けました。

牛群の主なファミリーは、アイデイーラスター、PRバービー、ポートレートが多くEXもこの主要なファミリーから多く輩出されています。繋ぎ牛舎、独房には高得点牛が並んでいましたが、フリーストールでも乳房の質が良く、望ましい後肢後望を持った牛が多くいる印象を受けました。使用精液はノーマル60%、性選別40%、現在使用しているのは、A2P2、サイドキック、アロングサイド、リミテツド、ノウハウなど。ゲノム成績の種雄牛は授精しておらず検定済種雄牛のみを使用しているとのことでした。

ボスデールでは更に増頭することを予定しており、103クオータを購入したとも仰っていました。

ポートレートファミリー EX-94(アットウッド)

WALNUTLAWN HOLSTEINS（ウォルナットローン牧場）

最後の視察先であるウォルナットローン牧場は、2020年にロボット２機のフリーストール牛舎を導入しました。耕地面積は380ha、麦、大豆、コーン等を作付けしており、搾乳牛の平均能力は、M12,000kg、F4.2%、P3.3%となっています。また著名な種雄牛を輩出しており、今年のWORLD DAIRY EXPOでグランドチャンピオンとなった、LOVHIL SIDEKICK KANDY CANEの父サイドキックや、2022 WORLD DAIRY EXPOシュープリームチャンピオンのOAKFIELD SOLOM FOOTLOOSE ETの父ソロモンなど、近年では当牧場が輩出した父を持つ娘牛がショウで多数出品されています。牧場の主なファミリーは、PRバービー、ラバンガード・スーでありラバンガード・スーは高額だったこともあり悩みに悩んで購入し、その後ドアマンを掛け合わせてソロモンが誕生し、更にラバンガード・スーの孫にあたるサイドキックがここウォルナットローン牧場で誕生しています。

改良目標は、骨格（タイプ）、肢蹄、健康形質の順番で交配種雄牛を選択しており、A2P2、ジョーンボーイなどを使用し、検定済種雄牛を多く使用しており、ヤングサイアは積極的には使用せず少しずつ使用しているとのことで、牛群は体長があり、腰角、座骨の幅があり、乳房底面の高い牛が多くいる印象を受けました。また、世界中からロイヤルのショウに併せて視察を組んでいることから、ウォルナットローン牧場ではこの日だけで８組の視察依頼が入っており、夕方の６時まで視察の予定が入っているとのことでした。

牧場オーナー アダム・ゼア 氏

11月13日（木）３日目

ナイアガラの滝、ロイヤル・ウインター・フェア

３日目の午前中は世界３大滝布のひとつであるナイアガラの滝を見学しました。風はやや強かったのですが天気は良く、近くで見ると轟音とともに怒涛のように流れる大量の河の流れは自然の驚異を感じるとともに圧巻でありました。その後バスでロイヤルの会場へ向かう予定でしたが、バスがパンクしてしまいタイヤ交換に時間を要し予定の時間より遅れて会場へ向かいました。

無事会場に到着すると場内を一通り案内していただき、各々自由に観覧しました。

ロイヤル・アグリカルチュラル・ウインターフェアは多くの出展ブースや農作物の展示、家畜のショウが行われており、沢山の来場者と地元の学校行事で参加していると思われる学生も訪れていました。リング・オブ・エクセレンスで行われていた審査は午前中の審査が遅れておりレッド経産牛クラスを観ることができました。そこでは、今年のWORLD DAIRY EXPOでシュープリームチャンピオンになったGOLDEN ORKS TEMPTRES RED ET（父：アンストツパブル）がロイヤルにおいてもレッドアンドホワイトショウでグランドチャンピオンに選出され、胸の強さ、中躯の充実度があり、後乳房の幅があり、前乳房の付着の強さに優れておりました。その後ホルスタイン未経産クラスの審査が開始され審査員は、Joel Lepage氏（ケベック州）、アソシエートにはJean-Philippe Proulx氏が務めました。会場にいられる時間が夕方５時までとなっていたため未経産クラスを最後まで観ることが出来ず３部の途中で会場を後にしました。

R＆W グランドチャンピオン

ショウ終了後の幕舎

11月14日（金）４日目

ロイヤル・ウインター・フェア２日目

ショウ２日目は７時からホルスタイン経産牛の審査が開始されるため、最初から観たい参加者はそれぞれタクシーなどで会場へ向かいました。会場であるコカ・コーラ・コロシアムは、冬から春にかけてはアイスホッケーの試合会場となり、春から秋にかけてコンサートや見本市等様々なイベントに使用されています。

いよいよ始まった経産牛審査です。２歳未満の初産が２クラス設けられており、2023年12月～2024年２月産まれの経産クラスで18頭出品、2023年９月～11月産まれで36頭の出品でした。20ヵ月で分娩している牛も多く出品されており、初産分娩月齢の若さに驚くと同時に育成期間（コスト）を短縮しつつ長命連産に向けた改良方向であると感じました。２歳クラスは季節ごとに分けられており、サマー、スプリング、ウィンター、フォールと４クラスとなっており、次のクラスであるジュニア３歳クラスまでの７クラスでインターミディエイトチャンピオンを決定しています。シニア３歳クラスから４歳、５歳、成牛、生涯乳量７万kg以上のクラス審査が行われ、クラスが進むにつれて乳用強健性、乳房における付着の強さ、靱帯の強さ、質などに見惚れてしまう牛が多数いました。グランドチャンピオン決定審査の前に、プレミア・エキジビターの表彰があり、北海道ホルスタイン協会より盾を、松原副組合長および影浦経済企画委員長がプレゼンターとして受賞者であるBUTLERVIEW FARMへ贈呈しました。

その後すぐに行われたグランドチャンピオン決定審査では、スポットライトを浴びながら１頭ずつ入場し緊張感と高揚感のある素晴らしい演出でありました。

グランドチャンピオンには成牛クラスからALTONA LEA UNIX HERMINIE（EX-96-2E父：ユニクス）が選出され、体全体の幅、胸の幅、肋の開張、方向が優れ、後乳房の高さ、幅があり、乳房底面が水平であり、乳用性と強健性を持った牛であ

りました。リザーブグランドチャンピオンには４歳クラスからEIXDALE PWRUP ALONGSIDE(EX-92USA父：アロングサイド)が選出され、輪郭鮮明であり、前乳房が長く、強く付着しており、乳房底面が高く、体と乳房のバランス、骨質に優れた牛でありました。HMグランドチャンピオンには、インターミディエイトチャンピオン ジュニア３歳クラスよりWEST-ADUB LAMBDA SADIE(VG-89父:ラムダ)が選出され、輪郭が非常に鮮明であり、肋の開張、方向が優れており、後乳房の付着の高さ、幅があり、乳頭のサイズ、方向、配置が理想的であり、今年のWORLD DAIRY EXPOでは、リザーブグランドチャンピオンに選出されております。

時間が過ぎるのが早く感じた視察研修でしたが、夕食では最後の夜ということもありショウや視察先等の話しで盛り上がり疲れもある中、それぞれ楽しい時間を過ごしました。

ショウ前日の幕舎 左 ５歳２位ハードロック 右 G·C ユニクス

ショウ前日の幕舎 R·G·C アロングサイド

ショウ前日の幕舎 ５歳１位ユニクス

５歳１位ユニクス ショウ直前

11月15日(土) 5 日目　帰国の途へ

最終日の朝、ホテルの静かで落ち着いた会場でゆっくりと朝食をとることができました。その後はトロント中心部のホテルからバスで空港へ向かい、現地ガイドの森さんの見送りを受けてトロントから羽田へ。航行は非常に順調で予定時間より早く到着しました。羽田から新千歳空港へ乗り継ぐ方、東京で一泊する方などもいたためここで全員での行動は最後となり、影浦副団長より挨拶をいただき解散となりました。新千歳空港への出発と到着がやや遅れましたが無事に新千歳空港での発着参加者とも解散となりました。

今回は飛行機の遅れはなく、参加者に怪我や病気もなく、移動のバスがパンクするというハプニングがあったものの、ほぼ予定通りの行程で視察研修を終えました。今回一緒に視察研修をさせていただいた参加者の皆様に心よりお礼申し上げます。

視察研修は私にとって大変貴重な経験となりました。このような機会を与えていただいた組合長をはじめ、組合ならびに関係団体の皆様に感謝いたします。今後、この経験をいかして組合の役に立つよう心がけていきたいと思います。

写真協力：デーリイマン　　（審査部審査課 杉野）